

令和7年度第1回逗子市自殺対策計画推進懇話会 議事録

日 時 令和7年7月31日(木) 14時30分から16時30分

場 所 逗子市役所5階会議室

出席者 (アドバイザー) 瀬尾勲

(メンバー) 中嶋富美子、塔本邦彦、水野千春、飯野幸、滝田実、大沼三那子

欠席者 (アドバイザー) 小保内洋子、(メンバー) 漆垣かなえ、石澤方理 ※敬称略

傍 聴 なし

事務局 小上馬課長、青山副主幹、山下副主幹、竹内、武藤、佐藤

議事概要

1. 開会

課長あいさつ及び資料確認、出席者紹介

2. 議題

(1) 第2期逗子市自殺対策計画の概要について

<事務局より>

(資料1に沿って概要説明)

<メンバーより>

- ・生きることは「生かされている」という感謝の気持ちを持つこと、生きていることそのものが奇跡的なことであり、人に対する思いやりをもつことが大事。そうした教育が(自殺対策の)原点ではないかと思う。

(2) 令和6年度自殺対策事業の評価について

<事務局より>

(資料2に沿って概要説明)

- ・昨年度自殺対策事業について、取り組みの4本柱に沿って各課の評価をまとめた。
この評価について、ご意見などあればいただきたい。

<メンバーより>

(評価について異論なし)

- ・アメリカでは色々な人がいるため、差があって当たり前の環境がある。教室で子どもが間違えて答えても教師は否定しない。「そういう考え方もある、こういう考え方もあるのではないか」と気づきを与え、周囲からも発言したことを肯定される。そのため、本人も自信が持てる。また、それぞれの得意なことに着目して伸ばしていく面があるため、

人との違いに寛容で、自信をつけられるように感じる。自殺対策においては、自己肯定感を育てることが大事で、強化していくような教育ができると良いと思う。

(3) 令和7年度自殺対策事業について

<事務局より>

(資料3に沿って概要説明)

- ・今年度の当課での自殺対策事業の予定を、取り組みの4本柱に沿ってまとめた。ご意見などあればいただきたい。

<メンバーより>

(予定について異論なし)

3. その他(「逗子市地域福祉計画進行管理表」について)

<事務局より>

(資料4に沿って概要説明)

- ・逗子市地域福祉計画は、本計画や健康増進・食育推進計画の上位にあたる計画。昨年度取り組み状況をまとめたものを確認いただき、懇話会の意見をいただきたい。

<メンバーより>

- ・自殺防止センターで行われた研修では、実際にやってみるロールプレイが多く行われた。ゲートキーパー研修の際も、もう少し実践的なものを取り入れると良いのではないかと。教職員向けならば猶更、スキルアップを目指していくと良いと思う。

<事務局より>

- ・一般市民に広く自殺対策を伝えるにあたり、傾聴などの技術習得というよりも、まず気づける人を1人でも増やしていくことを目的とし、すぐに取り組めるところからやっ
ていこうという計画を立てて推進した。技術習得は次の段階になると思うが、教職員向け研修などでは検討したい。

<アドバイザー>

- ・一番大変な領域で、よくまとめていると感じる。若い人で自殺が多い原因とは何か。昔は生活していくために子どもでも役割をもっていたが、現代の子どもも多くは役割がなくても生活できる。代わりにゲームやスマートフォンに時間を費やすことが増え、顔の見えない関わりが増えた。地域の人とのつながりも薄れた。大人が他の子どもに注意するということも控えるようになっている。昔が良かったというわけではないが、色んな子がいるのに障がいなども細かく分けられ、それぞれの場所に分けられて地域

であり見えなくなってしまった。たった1回きりの人生が奇跡的なものである意識が薄れ、つながりが薄れ、ネットを介したいじめなど、複雑で難しくなっている。こうした難しい領域を、いかに行政としてまとめていくか、大変なことだが、改めて一人ひとりに役割を持たせることも大事だと感じる。

<事務局より>

- ・ご意見をまとめて「逗子市地域福祉計画進行管理表」に記載させていただく。
- ・その他、各メンバーからもご意見や取り組みなどご紹介いただきたい。

<メンバーより>

- ・ゲートキーパー研修を一般向けに行うことはハードルが高いという認識だったが、逗子市では行っているため、継続してもらいたい。
- ・庁内連携という面では、新人研修などでゲートキーパー研修をやると、職員の意識の底上げになるのではないかと。(→<事務局より>研修パートの中で端的に行ったことがあるが、他自治体の取り組みも参考に、検討したい。)
- ・子育て世代は本当に忙しい。自身はあまり悲観的にとらえなかったが、それは親の教えもあり、周りに頼りながらできたので感謝している。改めて色々な状況があることを知った。(→<事務局より>知ってもらおうということも懇話会の目的の一つである。)
- ・8月に行うゲートキーパー研修に申し込んでいる。地域で子どもから相談を聞くことがあるためノウハウが欲しいと考えた。近い人でも亡くなった人がいるが、関わるサインすら見せなかった人もいた。亡くなった人の家族のケアも必要だと思う。身近にいる子どもたちが必死にもがいていることに気付ける大人になるにはどうすればいいのか。サインに気づける、話してもらえるような大人が多くいて欲しいと思った。
- ・資料1内の統計について、自殺が発生した場所が逗子市なのか、自殺した人が逗子市民なのか。それを記載した方が良い。(→<事務局より>神奈川県提供の資料は発見日・発見地、逗子市の計画で使用している資料は自殺日・住居地である旨説明。)
- ・警察は自殺行為に及ぶ人の意思に関係なく保護する。強制力は強いが、継続性は乏しい。そのため、病院や相談機関につなげ、協力体制を作ることが重要だと思う。
- ・以前標語で「大丈夫と笑っているのは、困って悩んでいるのを隠すため」といったものを見た。表面的な表情や言葉だけで左右されないように心がけたい。最近の子どもは話すことが苦手と聞いた。寄り添うことが大事。寄り添うだけでも支えになると思う。
- ・家族にも学校職員にも相談できず、SNSで自殺未遂者から偏った情報を得て、興味が具体化するケースもあるようだ。
- ・電話相談窓口では若い人の相談はほとんどない。話すことに抵抗感があるのではないかと。ネットなどの相談窓口も対応しないといけないと感じる。

<アドバイザー>

- ・時代が進むことで人が進歩しているわけでもない。子ども達に命の大切さを伝えていくために、まだまだ勉強しなくてはいけない。分からないことを互いに連携しながら、取り組んでいくことが大切だ。

4. 閉会

- ・生かされている感謝の気持ちや自己肯定感を育むような教育などの話題も出たが、待っているのではなく、できることを進めていく。ゲートキーパー研修などを通じて身近な人の変化に気づけるように広めることの他、ロールプレイなどを行ってスキルアップを図ることや、職員研修によりベースアップを図ることなどについても提案をいただいた。現在本市が進めている自殺対策の方向性については違っているという意見はなかった。引き続き「誰も自殺に追い込まれることのない逗子市」を目指していきたい。
- ・次回懇話会は、令和8年1月頃を予定。改めて日程調整の連絡をさせていただく。

以上